

1ショット
ロングアクティングで
治療を完遂



子豚にも、投与しやすい量になりました。
体重10kg⇒投与量1mL=ツラスロマイシン25mg

 **ドロクシン[®] 25**

zoetis[®]

効果はそのまま、
子豚のステージでも
投与しやすい量になりました。



ドラクシン® 25は、「子豚に最適な治療薬*」です。

* 適応症：細菌性肺炎

特長

1

子豚にも投与しやすい量
(体重10kgあたり投与量が1mL)

特長

2

効果はドラクシン®と同じ
(体重1kgあたりツラスロマイシンとして2.5mg(カ価)を投与)

要指示医薬品の使用においては獣医師等の処方箋・指示により使用すること。

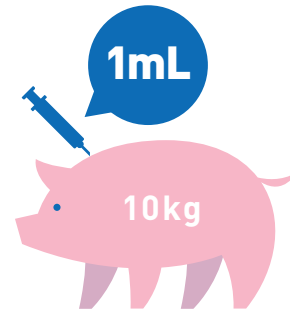
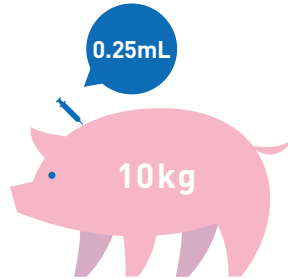
第一次選択薬が無効の症例に限り使用すること。

体が小さなステージでも投与しやすく、1

体重10kgの子豚に投与する場合・・・

従来の **ドラクシン[®]** では

ドラクシン[®] 25 なら

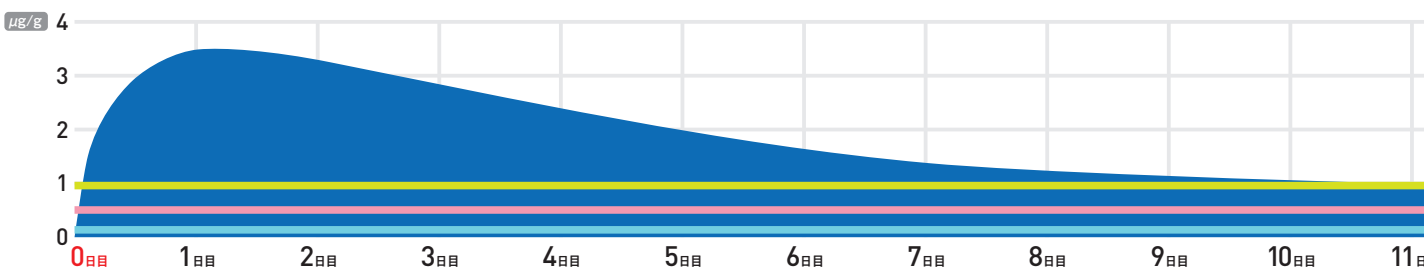


適量で打ちやすい!

薬剤の適正使用・治療コストの適正化

これまでのドラクシン[®]と変わらない効果

有効成分ツラスロマイシンを2.5mg(力価)/kg投与したときの肺組織内の



肺組織内で高い濃度が持続する

投与後、速やかに吸収され、30分で最高血中濃度に達し、肺組織では24時間で最高濃度に到達することが確認されました。感染部位に運ばれた後、肺組織内では約15日以上留まることが確認されました。

豚にツラスロマイシンを2.5mg(力価)/kg投与した時の血漿中および肺組織内のツラスロマイシンの濃度を調査。体重20~25.5kg、約2~3カ月齢の健康な豚42頭(雄雌各21頭)を試験に用いて、血漿及び肺組織を採取した。ツラスロマイシンは筋肉内投与後に速やかに吸収され、投与24時間後に肺組織で最高濃度3.47μg/gに達し、AUCを指標とした場合、肺組織には血漿中の約60倍の曝露が得られることが示された。

◎ドラクシン[®]の有効菌種に対する薬剤感受性

菌種	MIC ₉₀ (μg/mL)
アクチノバチルス プロニューモニエ (<i>Actinobacillus pleuropneumoniae</i>)	0.25
パスツレラ ムルトシダ (<i>Pasteurella multocida</i>)	0.5
マイコプラズマ ハイオニューモニエ (<i>Mycoplasma hyopneumoniae</i>)	1.0

* N. A. Evans, Tulathromycin: An Overview of a New Triamilide Antimicrobial for Livestock Respiratory Disease. Vet. Ther. 6(2):83-95m Summer 2005

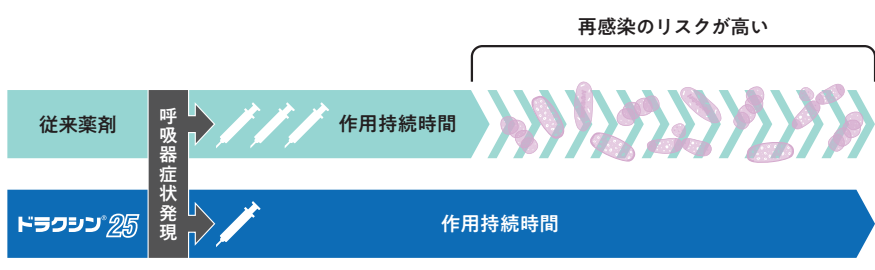
(ドラクシン[®]申請資料)

回の投与で治療を完遂させます。

1回の投与で15日間以上の持続効果が期待できます。



1ショット・ロングアクティングだから
投与のストレス・作業時間も改善

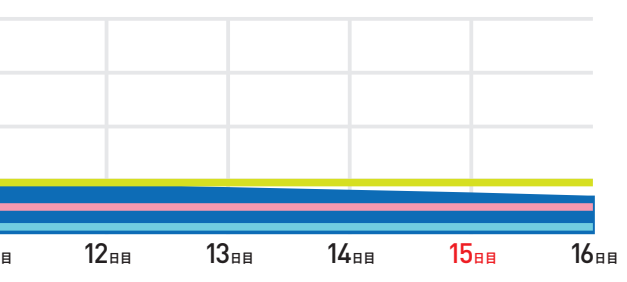


抗菌剤治療により呼吸器症状が改善しても、肺組織はすぐにはダメージから回復しません。

肺組織が回復するのに要する期間(7~10日間)は再発のリスクが高まります。ドロクシン®25は1回投与で呼吸器症状の改善と再発リスクの低減を達成。1回投与で治療を完遂します。

を發揮します。

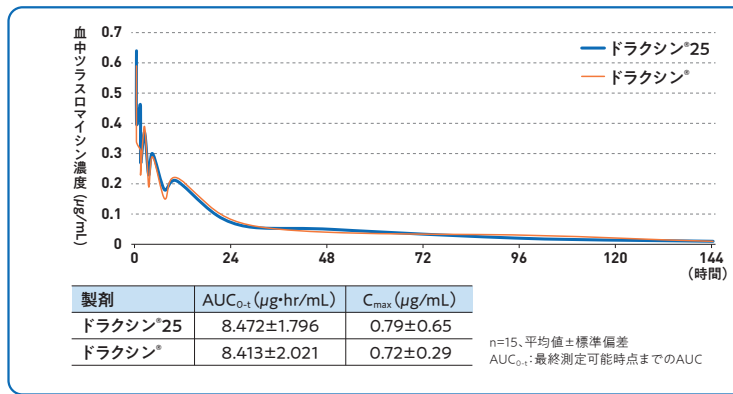
薬物濃度



血漿中濃度			
最高濃度	到達時間	半減期	投与24時間後
0.58 μ g/mL	0.5h	91h	*0.14 μ g/mL

肺組織内濃度					
最高濃度	到達時間	半減期	投与7日後	投与15日後	血漿に対する肺組織AUC比率
3.47 μ g/g	24h	142h	1.38 μ g/g*	0.78 μ g/g*	約60倍

*ドロクシン®投与24時間後の血漿中濃度、投与7日後および15日後の肺組織内濃度は幾何平均値。
(ドロクシン®申請資料)



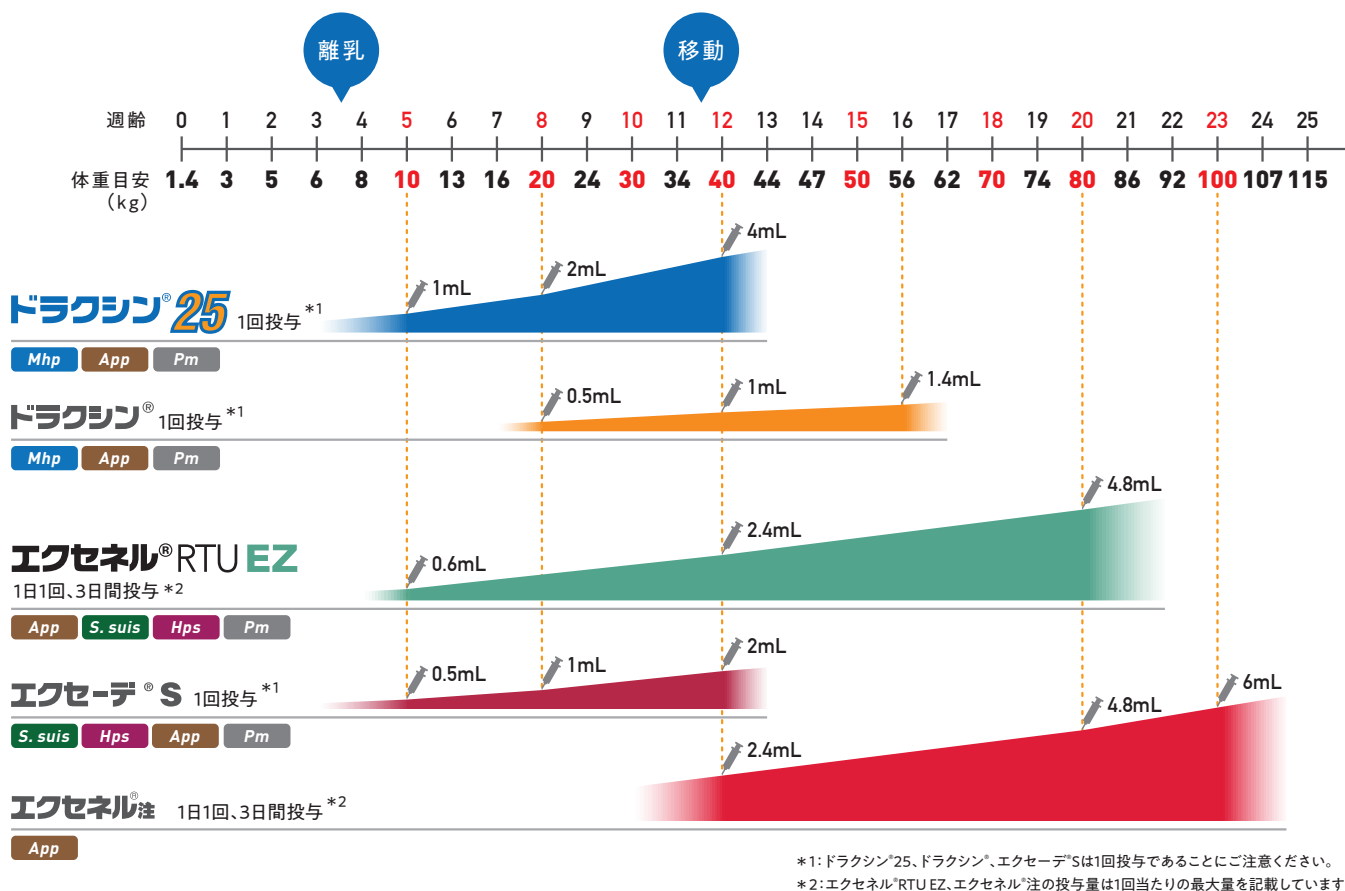
ドロクシン®25とドロクシン®の生物学的同等性(豚)

ドロクシン®25あるいはドロクシン®を、1群15頭の豚(投与前日体重34.3~42.3kg)の頸部に2.5mg(力価)/kgの用量で単回筋肉内投与。経時的に採血し、ツラスロマイシンの血中濃度を測定。

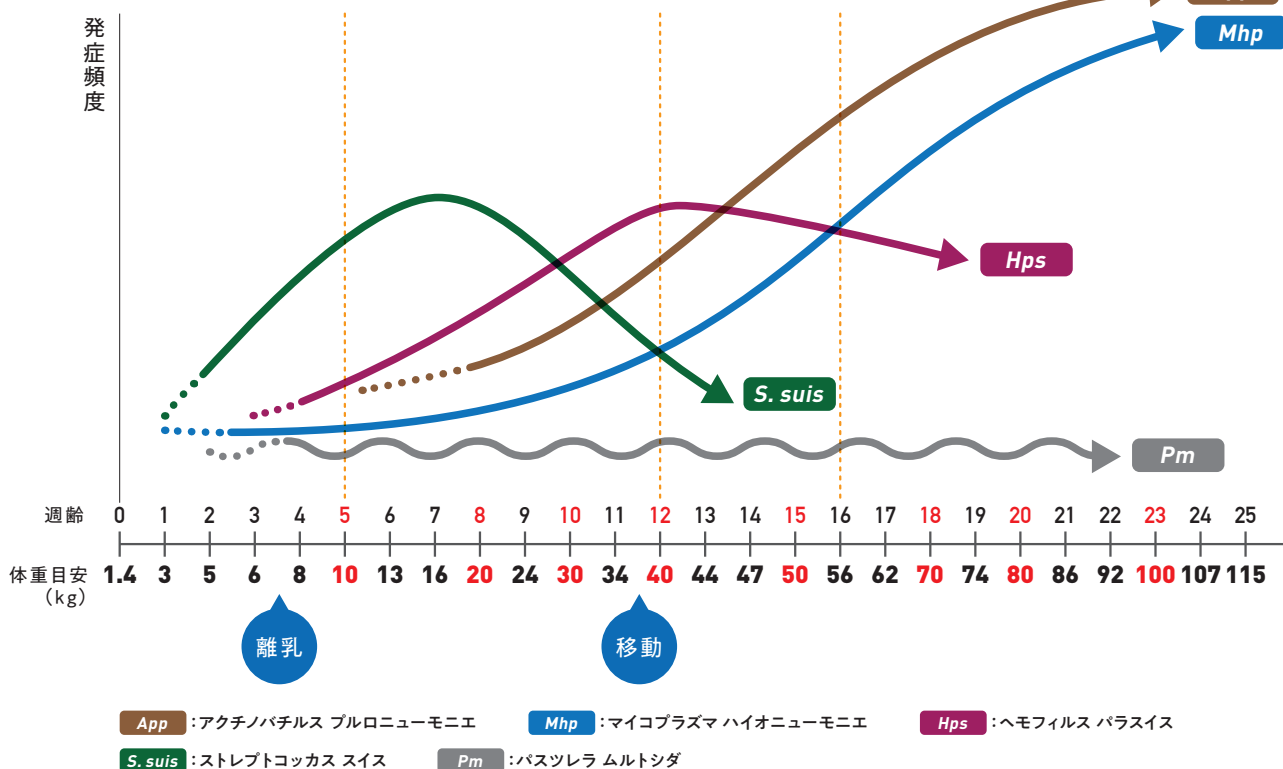
ドロクシン®25とドロクシン®の生物学的同等性が認められました。

(ドロクシン®25申請資料)

ゾエティスの抗菌剤ラインアップで 発育ステージと病因に合わせた治療薬の選択を。



発育ステージと発症頻度との関係 (想定図)



要指示医薬品の使用においては獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
第一次選択薬が無効の症例に限り使用すること。

動物用医薬品

要指示医薬品 使用基準 指定医薬品

貯法 密封容器 室温保存



投与量早見表

体重 (kg)	投与量 (mL)
1	0.1
3	0.3
6	0.6
10	1.0
15	1.5
20	2.0
30	3.0
40	4.0

離乳後の子豚に投与しやすい投与量

* 体重40kgを超える場合は投与容量を分割してください。

【成分及び分量】

品名	ドラクシン25
有効成分	ツラスロマイシン
含量	1mL中25.0mg (力価)

【効能又は効果】

〔有効菌種〕 アクチノバチルス プルロニューモニエ、パスツレラ ムルトシダ、マイコプラズマ ハイオニューモニエ

〔適応症〕 豚：細菌性肺炎

【用法及び用量】

豚：体重1kg当たりツラスロマイシンとして2.5mg (力価)を単回頸部筋肉内注射する。

【使用上の注意】

(基本的事項)

- 守らなければならないこと
(一般的注意)
 - ・本剤は、要指示医薬品であるので獣医師等の処方箋・指示により使用すること。
 - ・本剤は、効能・効果において定められた適応症の治療にのみ使用すること。
 - ・本剤は、定められた用法・用量を厳守すること。なお、用法・用量に定められた単回の投与であってもそれを反復する投与は避けること。
 - ・本剤は、「使用基準」の定めるところにより使用すること。

注意：本剤は、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第83条の4の規定に基づき上記の用法及び用量を含めて使用者が遵守すべき基準が定められた動物用医薬品ですので、使用対象動物(豚)について上記の用法及び用量並びに次の使用禁止期間を遵守してください。
豚：食用に供するためにと殺する前16日間

(取扱い及び廃棄のための注意)

- ・本剤は、初回穿刺後90日以内に使用すること。
- ・小児の手の届かないところに保管すること。
- ・本剤の保管は直射日光及び高温を避けること。
- ・注射器具は滅菌又は煮沸消毒されたものを使用すること。薬剤により消毒をした器具又は他の薬剤に使用した器具は使用しないこと(ガス滅菌によるものを除く)。なお、乾熱、高圧蒸気滅菌又は煮沸消毒等を行った場合は、室温まで冷えたものを使用すること。
- ・使用済みの容器は、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・本剤を廃棄する際は、環境や水系を汚染しないように注意し、地方公共団体条例等に従い処分すること。
- ・使用済みの注射針は、針回収用の専用容器に入れること。針回収用の容器の廃棄は、産業廃棄物収集運搬業及び産業廃棄物処分業の許可を有した業者に委託すること。

2. 使用に際して気を付けること

(使用者に対する注意)

- ・誤って注射された者は、直ちに医師の診察を受けること。

(豚に関する注意)

- ・副作用が認められた場合には、速やかに獣医師の診察を受けること。
- ・体重40kgを超える豚に投与する場合は、投与容量を分割して、1カ所への投与量を40mL以下にすること。
- ・注射部位筋肉に変色がみられることがある。
- ・注射部位に一過性の紅斑がみられることがある。

(専門的事項)

- ①禁忌
 - ・マクロライド系薬剤に過敏反応を示したことがある豚には投与しないこと。
- ②対象動物の使用制限等
 - ・妊娠豚に対しては安全性が確立していないため、使用の是非を慎重に判断すること。
- ③重要な基本的注意
 - ・本剤は、第一次選択薬が無効である症例に限り使用すること。
 - ・本剤の使用に当たっては、耐性菌の発現等を防ぐため、原則として感受性を確認し、適応症の治療上必要な最小限の投与に止めること。

【有効期間】 3年

【包装】 100mL (100mL×1 ガラスバイアル入)



最前線の疾病対策情報をWEBで公開!

会員登録するだけで、すべての動画をご視聴いただけます。

www.zoetis.jp/ls/swine/index.aspx

ゾエティス 豚

検索

